

渡航者医療センター

● スタッフ（平成28年10月1日現在）

診療部長 濱田 篤郎

医師数 常勤 2名
非常勤 4名

● 診療科の特色・診療対象疾患

渡航者医療センターはトラベルメディスン（渡航医学）の専門診療科である。渡航医学は海外渡航者の健康問題を総合的に扱う領域で、近年の国際化に伴い、日本でも需要が高まっている分野である。

当センターでは海外渡航者に総合的な診療を提供することを目標とし、とくに予防医学的な診療に力を注いでいる。健康問題別では感染症関係の診療が中心になっており、出国前にワクチン接種や薬剤投与などの予防対策を提供している。帰国後の有症者の診療も感染症科と連携して行っている。また、高山病関係の専門外来を設置し、高地に滞在する渡航者への健康指導を行っている。さらに、慢性疾患を抱える渡航者や小児渡航者には、個別の健康指導を行っている。これに加えて、海外渡航者のメンタルヘルスに関する専門外来も設置した。なお、平成26年から当センターでの黄熱ワクチン接種が可能になった。

● 診療体制と実績

(1) 外来診療の実績

渡航者医療センターでは外来診療のみを行っている。表1に平成23年度～28年度の外来診療の実績を示す。

表1. 渡航者医療センターの診療実績
(平成23～平成28年度)

項目	年間平均数
総受診者数	4,694名/年
初診者数	2,001名/年
小児受診数	796名/年
診療項目別	
予防接種	4,266名/年
健康診断	172名/年
高山病外来	169名/年
帰国後診療	86名/年

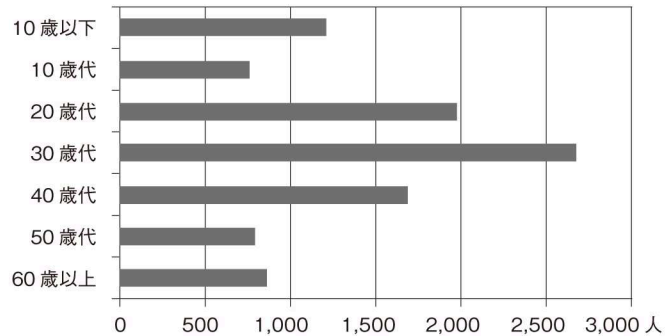
総受診者数は年平均4,694名で、このうち約40%は初診者が占めていた。また約20%が小児である。診療項目別でみると、予防接種が4,266名と最も多く、これに健康診断や高山病外来が続いた。なお、当センターでは帰国後診療以外は全て自費診療を行っている。

(2) 受診者の特徴

平成23年～27年の受診者9,841名の特徴を紹介する。性別では男性が56.8%を占めていた。年齢は20歳代～

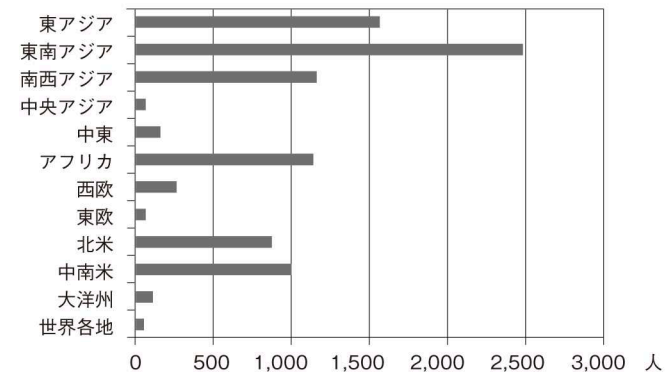
40歳代で63.7%を占めたが、10歳以下の小児が12.1%で、60歳以上の高齢者も8.7%だった（図1）。渡航期間は2年以上の長期滞在者が35.1%で最も多いが、1ヶ月未満の短期渡航者も33.3%だった。渡航目的は、仕事（帯同家族も含む）が69.6%と7割近くを占めており、観光16.1%、留学8.3%と続いた。

図1. 受診者の年齢（平成23年～27年）



渡航地域は東南アジア（27.2%）、東アジア（16.8%）、南西アジア（12.9%）などアジア圏の割合が多く、アフリカ（14.3%）、中南米（11.1%）がこれに続いた（図2）。一方、北米（9.9%）、西欧（3.1%）などの先進諸国は少なかった。

図2. 受診者の渡航地域（平成23年～27年）



(3) 接種したワクチンの種類

平成23年～27年に受診者に接種したワクチンの種類を図3に示す（延べ本数）。A型肝炎、狂犬病、B型肝炎、破傷風が上位を占めていた。このうち、A型肝炎では17.5%、狂犬病では73.8%が輸入ワクチンだった。また、腸チフス、髄膜炎菌、ダニ媒介脳炎、コレラなどは全て輸入ワクチンで接種を行った。

図3. ワクチンの種類

